

## 折り紙を用いた壁面をつくる

幼児教育学科 2回生 羽兼 桜

私たち松川ゼミは、毎月折り紙を用いた壁面を作成し、小児がんで入院する子どもたちがいる病院に届けました。活動の目的は、壁面を届けることで少しでも喜んでほしいという想いと私たちの壁面作成や折り紙の技術向上のためです。また、入院している子どもたちが壁面を見たり、折り紙を折ったりして楽しんでほしいという想いから活動を続けてきました。壁面は毎月季節に合ったテーマを考えてつくり、折り紙もテーマにあったもので簡単に折りやすそうなものを調べて加えました。さらに、壁面と一緒に折り図もつくって届けました。折り図をつくる際には、折り方を調べて一度自分たちで折ってみることで、どの折り紙でも難しい部分があり、それらをどのような説明文にするか、折り紙をどのように貼ると分かりやすいかなど子どもの気持ちになって考えてつくることができました。

小児がんで入院する子どもたちに壁面を送り届ける中で、「がんの子どもを守る会」の方からクリニックハウンのワークショップを紹介していただき、参加しました。「すべてのこどもにこども時間を」という言葉のもと活動を続けていて、病気という色眼鏡にとらわれずに一人一人の子どもの気持ちや思いを大切にしていることを知りました。クリニックハウンの方々が子どもとかかわる時に大切にしていることや自分自身が楽しむ大切さなど、保育の場面にも通ずることを学ぶことができたので、今後に生かしていきたいと感じました。オンラインのワークショップではあ

りましたが、他に参加していた方々との交流もあり、様々な考え方も吸収することができました。

1月には、「がんの子どもを守る会」の方と一緒に学内にゴールドリボンツリーの設置や絵画の展示も行いました。その際に、壁面や折り図が届けられてからの様子などの話を聞くことができ、親子で折り紙を楽しんでくれたという話が聞けて、自分たちの活動が少しでも役に立ったのだと実感することができて嬉しかったです。

ゼミでの活動を通して、壁面や折り紙の技術だけではなく、小児がんについて、クリニックハウンの活動など保育の分野にとどまらず様々な知識を得ることができました。その中で、子どもとのかかわりを改めて考えるきっかけをもらい、実践に繋げていきたいと感じました。他にも、協力することや期限を考えて行動することなど基本的なことも改めて大切であると見直すことができました。これらの経験を、今後働くうえで生かしていきたいと思います。

